



昭和 42年 12月 25日 第三種郵便物認可 平成 25年 6月 25日 発行 (偶数月 25日 発行) 通巻 455号 ISSN1882-9643

# **J-SAILING**

**JAPAN SAILING FEDERATION**



**NO.101**

**[www.jsaf.or.jp](http://www.jsaf.or.jp)**



今日も  
元気に  
チップスター



チップスター  
コーンチップ  
で当たる!



抽選で総計 (毎回1,250名様)

**5,000**名様に当たります!

Aコース  
計 **2,500** 名様  
(毎月625名様)

オリジナル  
ティータイムセット



Bコース  
計 **2,500** 名様  
(毎月625名様)

オリジナル  
サマーグラスセット



最終応募締切: 2013年7月31日(当日消印有効)

※賞品のデザイン、仕様等は変更になる場合がございます。

詳しくはパッケージ・ホームページをご覧ください。 <http://www.yamazaki-nabisco.co.jp/>

**ヤマザキナビスコ**

# JSAFからのメッセージ

## 今年度の活動

今年度のJSAFの活動計画の一部を紹介します。

■ 昨年度から公益財団法人に移行し、  
いっそうの社会的な責任を感じています。

倫理委員会やコンプライアンス委員会を新設し、  
スポーツ界の諸問題に対応します。

■ ユース制式艇種は数年間の検討を経て

420級とレーザー級を選定し、

2015年和歌山で開催される国民体育大会

およびインターハイから採用となりました。

■ 大型艇では先日、神戸・横浜レースを終え、

9月にはニューヨークヨットクラブの招待杯が開催されます。

国際レースでは、ブラインド世界選手権を6月に終え、

夏にはOP級のアジア選手権が開催されます。

■ また、オリンピック関係では担当委員会を

オリンピック強化委員会と呼称を変え、

東・西・中日本と3水域に担当コーチを任命、

リオデジャネイロオリンピックに向けた強化に取り組みます。

■ 「2020オリンピック・パラリンピックを日本で！」

東京招致の実現をめざし活動します。

シーズン真っ盛り。

安全を第一に、風や波や潮を相手にセーリングスポーツの  
醍醐味を楽しみましょう。



### ■ ジュニア・ユースにも届きます。

本号からJ-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方々には、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

### ■ PDFでも読めます。

JSAF ホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/> にアクセスしてください。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

### ■ メールアドレスを併記してください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAFもメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いします。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

## JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>



# さらなる 飛躍を 実感!

## 2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権

5月24日～6月1日 シーボニアマリーナ

photo by Junichi Hirai

### 始まりは1997年の ウエイマズ遠征

1996年、日本視覚障害者セーリング協会（JBSA）設立時、この日が来ることを思い浮かべていたでしょうか。視覚障害者と晴眼者がセーリングクルーザーに同乗することが精一杯でした。世界のレベルもわからないまま97年イギリス・ウエイマズの第3回世界選手権に参加しました。メンバーは竹脇、八木、日



6カ国19チームの参加を得て開催された「2013 IFDSブラインドセーリング世界選手権」。

B1、B2クラスは英国、B3クラスはニュージーランドが優勝。

3クラスに各2チームが参戦した日本チームは、B1(参加7艇)で4位、5位、B2(同5)で3位、4位、B3(同7)で3位、4位を獲得。国別対抗でも3位に入賞した。取材協力/大会広報委員会

\* B1クラス(全盲)、B2クラス(光覚手動)、B3クラス(弱視)

### 最高の舞台が整う

本格的に準備にかかろうとした時、大会はクラブ主催でなければならないことがわかりました。JBSAは協会であったクラブではない、世界選手権の主催団体になり得ないということです。そこでJBSA神奈川支部の活動拠点であるリビエラリゾートとオーナーズクラブであるシーボニアヨットクラブに相談したところ、快諾をいただき、ようやく日本大会開催の見通しがついたのです。

瞬く間に時は過ぎ、日本代表選考レースとして12年の全日本大会をシーボニアマリーナで実施しました。日本代表3

高、竹脇猷で、初出場ながら銅メダルを獲得しました。以降、米マイアミ、伊ガルダ湖、米ニューポート、NZロトルアと5大会連続で参加しました。  
世界選手権大会期間中には、参加国のブラインドセーリング協会の代表による会議が持たれます。主要議題のひとつに、次回の開催地の検討、決定があり、99年のマイアミ大会では、日本開催を推す声が大勢を占めました。しかし、竹脇会長(当時)をはじめわれわれは「日本での開催はとても無理です」という意志を伝えました。その時以来、日本開催が議題に上るようになり、2009年ロトルア大会で日本開催の機も熟しただろうという声も再燃したのです。こちらも腹をくくる時が来たと覚悟し、日本開催を受けました。JBSA内でも日本開催は無理という意見も多く出ました。でも日本開催を受けたのです。  
ロトルア大会最終日にブラインドセーリングのドン・メイソン会長のたどたどしい日本語での挨拶「ニセン、ジユウサン、ネン、ミンナデ、ニホンニ、イコウ」で、いよいよ開催への第一歩を踏み出すことになったのです。マイアミ大会から10年がたっていました。

# 世界選手権開催顛末

外山 昌一／大会実行委員長・シーボニアヨットクラブ理事

## おもてなしの心で迎える

私がこの大会にかかわったのは3年前。JBSAからシーボニアヨットクラブが主催団体になってほしいと相談を受け、当クラブの理事会の決議、大野利美知理事長の了解を得て、本格的に取り組みました。

ボートショーへの出展、資金集め、使用艇のJ24の手配等、文字どおり事務局を軸に奔走しました。しかしここまでは、ヨットレースの準備ではよくある話です。

一方、これまでJBSAの皆さんは5大会連続でワールドに参戦していますが、参加選手、ビジターという立場なので運営サイドの情報がなかなか得られません。「空港からレース会場までは自力で移動」、「宿泊も食事リストをもらって手配は自前」、「宿からレース会場までも各自で行く」などということも初めて知りました。

私が大会実行委員長を仰せつかってまず念頭に置いたのは、これまでの海外大会から真似るべきことは真似て、できる限り日本らしさ、おもてなしの心を感じてもらえる運営を実現したいということでした。

国際大会では言語の違いは当然ですが、成田空港から会場への移動、会場と宿泊地の移動、さらに視覚検査、はたまた糖尿病やアレルギー発症を避けるための弁当の食材の厳選等、初めて体験する幾多の課題に突き当たりました。おもてなしの心で迎える大変さを実感しながら、できるだけ手弁当で、でもかかるところはしっかり投資して取り組むようにしました。ちょうどシーボニアヨットクラブ創設45周年の記念行事という位置づけも得

て、ヨットクラブメンバーの理解と多大な支援も受けることができました。

## 得難い経験

2010年10月に準備委員会を立ち上げ、12年4月からシーボニアのオーナーズルームで隔月に実行委員会会議を開き、確認、検討を重ねてきました。回を追うたびに本当に間に合うのかという不安が増しました。

海外対応や広報作業についても連日のようにミーティングを行いました。なかでもIFDS(視覚障害者ヨットの世界機構)による厳密な視覚検査への対応のため、視力、視野検査の精密医療機器を会場に持ち込み、19チームの全ブラインドセーラーが順番に検査を受けたことは得がたい経験となりました。今大会を機にブラインドセーリングというスポーツ、競技がますます発展することを願い、また今後でもできる限りの応援をしたいと思えます。

大会の根幹を支えていただいた運営委員、プロテスト委員、メジャー、テクニカルデゲレートの皆様、ホスト会場での献身的な対応をしていただいたリビエラリゾートスタッフ、艇体の回航からメンテナンスをはじめとして組織力を発揮したJBSA、そして地元三浦をはじめとする50人以上のボランティアの方々の力で無事終了することができました。服部真湖さんによる開会、閉会式の司会、日本舞踊の演技も大好評でした。皆様のご支援、ご協力に心よりお礼申し上げます。なお大会最終日のJSAF名誉総裁であられる「高円宮妃 久子殿下」のご観戦、表彰式へのご来臨は選手、関係者にとってより一層意義のある大会となりました。

**海外選手は本気モード**  
海外選手は本気モードで勝ちにきます。私たちは、ホームウォーターともいえる環境が、ややもすると油断に繋がりがかねないと思い、レース中は毎日全員ミーティングを持ちました。いい走りをした艇の情報を共有して次につなげ、世界選手権に参戦している選手であることを見覚するためです。個性や身体的能力の差を相互に認識し、補い合い、世界の選手と精一杯戦いました。15レースを終え、まだまだ上があることを思い知らされた結果にはなりましたが、確実にレベルアップしていることも実感できました。

チーム、主催国枠3チーム、B1、2、3の各クラスに2チーム、計6チームが参戦する体制が整い、私は最年長ということもあって、まとめ役の総監督の任を受けました。  
主催者はレース艇として同一クラス艇をできる限り同条件にして準備するのですが、J24協会とオーナーの方々のご厚意で20隻を借りることができました。世界5カ国から13チーム、そして日本の6チームを迎えるために、最高の舞台を整えていただきました。



B1クラスに参加した日本艇(maka maka)(ブラインドヘルムは川添由紀選手)

これからは、ヨット競技の国際ルールを十二分に理解し、ハイレベルな戦いで勝利を目指すアスリートとしてのステータスアップを目指しながら、ブラインドセーリングの普及にも努めたいと思います。たくさんのご支援、ご声援をありがとうございます。ご支援をありがとうございます。(秋山 淳／日本チーム監督・日本視覚障害者セーリング協会副理事長)



www.gill.jp  
Fortune Corporation  
info@gill.jp

## Recent Results

### 2013 21st Arirang Race

- IRC 1.KARASU  
2.SECOND LOVE  
3.DRAGON-GATE SURUSUMI  
4.NOFUZO

### 第25回関東ミドルボート選手権

- 総合/GROUP A 1.Gaia  
GROUP B 1.Adonis  
2.Shark X

### KYC COMMODORE'S CUP 2013

- IRC 1.SUMMER GIRL  
2.WAILEA  
3.CHOVE CHUVA  
X350D 1.WAILEA  
2.CHOVE CHUVA  
3.FIVESTAR

Powered by NORTH SAILS

# SB

## 価格を超えた価値

ノースセールのデザイン力が艇のポテンシャルを最大限まで引き出し勝利に貢献しています。

2013 春、日本各地のレースで、ノースセールユーザー艇が各レガッタで上位を独占し好成績を残しました。

インショアレースからオフショアロングレースに至る様々な条件下のレースで、その真価を発揮しています。



*Faster by Design*

[www.jp.northsails.com](http://www.jp.northsails.com)

本社・横浜ロフト 045-770-5666  
関西ロフト 0798-26-7771  
北海道ロフト 0134-25-3227  
[info@jp.northsails.com](mailto:info@jp.northsails.com)

Sharon Green photo



# タモリカップ、 横浜で開催

ヨットレース「タモリカップ横浜」が、今年8月31日と9月1日、横浜ベイサイドマリナーをベースに開催されることになった。

## タ

モリカップといえは過去4回、沼津をベースに開催されている。回を追うごとに参加艇数が増え、昨年の第4回には81艇が集まる規模となった。西の阿波踊りカップ、東のタモリカップと称されるほどで、楽しいヨットレースの代名詞ともなり、大いに賑わいを見せている。

その「タモリカップ」ヨットレースが今年も横浜での開催となった。

8月31日が前夜祭、9月1日がレースとなる。

過去のタモリカップの盛り上がり、横浜という利便性が加わることを考えると、昨年のタモリカップを上回る参加艇数になりそうな気配だ。

同レースの名譽会長は言わずと知れたタレントのタモリさん。98年からJSAFのメンバーでもある。タモリさんは「レースの規模を大きくすることが目標のひとつです」と言い、今回の横浜開催に大きな期待を寄せている。

大型船の無線通信士になろうとしたほど「船」が大好きだったタモリさん、中学生のころから海を眺めては船のことばかりを考えていた。福岡市内の海水浴場で初めてオペティミストディンギーに乗り、ヨットに目覚めたという。しかし、大学に入ってからにはジャズに没頭し、しばらく海からは遠ざかった。ところが、ジャズサークルの先輩に徳島県のケンチヨビアを作ったヨットマン、故瀬川洗城さんがいた。その瀬川さんに連れられてスナイプに乗り、船の楽しさを思い出した。

卒業後にタレントとして活躍する一方、船への思いは募るばかり。40歳を過ぎたころによくや長時間が取れるようになり、海のきれいな駿河湾にクルーザーを進水させることになった。

その後、地元のヨットクラブでクラブレースやクルージングを楽しんでいたが、近年になりレースの参加艇数が減少し始めた。そこで、近隣のヨットクラブと合同レースを開催するようになり、そのレースにカップを提供したのがタモリカップの始まりだった。

「みんなに楽しんでもらいたいから」とタモリカップになってからは裏方に徹してきたタモリさん。その成果はみるみるうちにあらわれ、前夜祭や表彰式、アフターレースが充実し、日本で一番楽しいヨットレースとの評判が立ち、参加艇数はウナギ登りに増えていった。

さて、今年の「タモリカップ横浜」に関しては、現在、会場となる横浜ベイサイドマリナー、横浜ポルト天国実行委員会、そしてJSAF神奈川県セーリング連盟とタモリさんが実施内容の詳細を協議中だが、山崎達光名譽会長もこのレースに興味を示している。

というのも、山崎さんはJSAFの会員を増やすアイデアをこれまであの手こずりで考えてきた。オリンピックのメダリストを輩出することも、アメリカズカップ獲得を目指すこともその手段の一つだったが、他方で「ヨットは楽しいよ」ということを前面に打ち出し、多くの人が参加しやすいオープンヨットレー

スやレースを絡ませた海のイベントの可能性を考えていた折りも折り、今回の話を知った。

山崎さんは、大勢のセーラーやその家族、あるいはこれまでセーリングに興味を持たなかった層が注目するだろう「タモリカップ横浜」を絶好のPRのチャンスと捉え、「みんな思いっきりセーリングを楽しんでほしい。そして、JSAFの活動でもある海の安全やルールへの理解を深め、レベルアップしてほしい。また海環境保全、青少年育成事業等に賛同いただき、海を楽しんでいる人が一人でも多くJSAF会員になってもらえればありがたい」とエールを送る。

一方、「このレースは人に見せびらかせるのが目的」と笑顔で公言してはほかないタモリさんには、「なんでそんなにヨットは面白そうなのと人々に興味を持たせ、この世界に多くの人びとを引き入りたい」という気持ちがあるという。「横浜のレースが成功モデルとなれば、いろんなタモリカップのようなレースが生まれるかもしれない。このノウハウをどんどん真似ていただき、全国に広げたい。そうならば、時間の許す限り私はどここのタモリカップへも出かけ行き、みんなと一緒に盛り上げますよ」と意気軒高だ。今年の夏は横浜の海がにぎやかになりそうだ。



### 「タモリカップ 横浜」概要(案)

8月31日(土)  
16:00~18:00 艇長会議&安全講習会  
18:30~21:00 前夜祭 大バーベキューパーティ

9月1日(日)  
09:00~ 海上パレード  
10:00~14:00 レーススタート  
15:30~17:00 表彰式 ピアパーティ  
(※時間は目安です)  
◇ホームポートは、横浜ベイサイドマリナー。  
◇海上パレードは、マリナー内ではなく、洋上で開催予定。  
◇パーティ場所は、ベイサイドマリナーホテル前(親水公園)です。前夜祭がメインパーティとなります。



# 外洋レース、 各地で開催

今年のゴールデンウィーク、各地で外洋レースが開催された。島回り、ブイ回航、海峡横断、国際親善、地域おこし、ダブルハンドにフルクルーとそのレース形態は様々だが、みんなの真剣な姿勢、そしてヨットが大好き、という気持ちが伝わってくる。その中から6つのレースをピックアップ。各レースの選手や運営の方々にレポートしていただいた。

## Line up

- RACE 1** 2013神戸・横濱ヨットレース
- RACE 2** 第7回たねがしまカップヨットレース
- RACE 3** 第25回ミドルボート選手権
- RACE 4** 第2回東京湾ダブルハンドヨットレース
- RACE 5** 第21回日韓親善アリアンレース
- RACE 6** 第12回台琉友好親善国際ヨットレース

